

新宮山彦ぐるーぷ第2390回

持経宿の巡回整備

◇実施日 9月26日(金) 晴

◇参加者 沖崎吉信、松本吉殖、畑林秀味、梶野照雄、村吉光夫

5名

9月16日に持経宿・平治宿に7人が出向き、平治宿の床マット敷と持経宿の新しいストーブの煙突工事を行ったが、時間切れで完工に至らず持ち越しとなっていた。松本君から、この日行きますとの返事をもらい、今日は残っているストーブと煙突をつなぐ作業を行う。



持経宿に着く

煙突の接続

午前8時半にスポーツ公園駐車場に集まり、沖崎車と村吉車の2台

で持経宿に向かった。ゲート先2km位の荒れ具合は相変わらずだ。途中の林道で、先日切った斜木を30cmほどに玉切りしてマキ材を確保、村吉車に積み込んだ。池郷林道ゲートから30分で持経宿に着く。松本、畑林のお二人は煙突の接続。沖崎、梶野の二人で旧ストーブ跡に床材を貼り、床を作る。床材の土台が均一ではないため、切ったり削ったりで少し時間がかかったが、フラットな床が出来上がった。床材の色が違うが、マットで覆われるので問題は無い。



ストーブ跡に床材を貼る

旧ストーブの解体

村吉さんは前回汚してしまったマットをきれいに拭き掃除。皆の作業が一段落し、小屋前のテーブルで昼食を摂る。食後、梶野君は発電機を小屋前に運んでキャブレター掃除を行う。エンジンを始動してみると快調に動き続けている。5分ほど運転を続けてエンジンを止めた。松本君が旧ストーブの解体を始めている。梶野君がディスクグラインダーを出してきて松本君と二人で解体を始めた。12本のボルトは前回も試みたが、大型スパナでも全く動かず、そのまま

野ざらしで、腐るのを待つしかないと思っていたが、ディスクグラインダーでナットの一部を切り、側面の一枚を外すことが出来た。



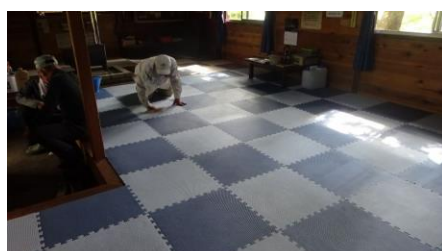
ストーブに火を入れる

マットを敷き詰める

もう片方のナットを切り始めたところ、発電機のスターターのロープが切れてしまい、発電機が使えなくなった。初持参のレスプロソーに金切刃を付けてナットを切ってみたが、その威力はすさまじく、残りのナット五つを切断して解体することが出来た。その後、ずらしていたマットを元通りに敷き、旧ストーブ跡の床にもマットを敷き詰めた。更衣室前の廊下と更衣室にもマットを敷いた。畑林さんはマットの端を丁寧に埋めてくださった。村吉さんはマット全部を雑巾がけ。「新品のマットを汚したままでは、高橋君に申し訳ない」と、二度、三度と丁寧に拭き取っていた。これで持経宿、平治宿ともに新しい床マットが敷き詰められた。高橋君に厚くお礼申し上げる。最後に新しいストーブにマキを入れて火入れ式を行い小屋を後にした。



末端の処理



雑巾がけ



本日の参加者

なお、スターターが切れた発電機は、部品交換のため持ち降ろした。

(記：沖崎)

行動タイム

スポーツ公園駐車場 08:35→09:25 池郷林道ゲート→10:05 持経宿 14:35→15:01 池郷林道ゲート→15:27 スポーツ公園駐車場